

たとえ言葉が 通じ合わなくても。

特別養護老人ホームカメラア桜ヶ丘・機能訓練指導員

私はSTとして、ご利用者のお食事の評価や、時に失語症の方々のリハビリも行っています。数年前から現在の特養に入職しましたが、当初より印象に残る仲の良いご利用者二人がいらっしゃいました。二人はいつも一緒にお話ししており、お互いを唯一本音で話し合える仲だと言っていました。

そんなある日、A様の容態に異変があり救急搬送されました。原因は脳出血で、暫くの間入院することとなりました。B様は入院中も「Aさんはどう？戻ってこれるの？元気なの？」と毎日のように心配されていました。

数週間後、A様は退院してこられました。後遺症により以前のようにお話しすることが困難な状態でした。翌日、A様の失語症状を評価すると聴覚的理解より、視覚的理解の方が保たれている(言葉を聞くより読む方が理解できる)状態であることが分かりました。

B様が「Aさんとお話がしたい」と言っていたこともあり、私はB様に手紙を書いてあげingことを提案しました。すると翌日から、毎日のようにA様に向けて手紙を書くようになり、手紙には「また会えて良かった。」との言葉がありました。

その後、A様の容態は徐々に悪化し、ベッド上で過ごされることが多くなりました。しかし、訪室するといつもB様からの手紙を握りしめておられました。数日後、A様はご逝去されてしまいましたが、B様は「今でも時々Aさんが夢に出てきてくれるの」と涙ながらにお話しされ、言葉が通じなくても二人が繋がっている気がしました。